

## 令和5年度 諏訪市学校づくり発表会 次第

1 日 時 令和5年5月22日（月） 午後 7時00分～

2 場 所 諏訪市役所 5階 大会議室

### 3 次 第

#### (1) 開会行事

〔司会： 根橋 ほなみ 諏訪中学校長〕

- |                  |              |
|------------------|--------------|
| ① 開会のことば         | 村瀬 裕美 中洲小学校長 |
| ② 諏訪市小中学校長会長あいさつ | 伊藤 靖徳 湖南小学校長 |
| ③ 諏訪市教育長あいさつ     | 三輪 晋一 諏訪市教育長 |

#### (2) 発表会

##### 小学校

- ① 豊田小学校
- ② 中洲小学校
- ③ 湖南小学校
- ④ 上諏訪小学校
- ⑤ 城南小学校
- ⑥ 四賀小学校

##### 中学校

- ① 諏訪西中学校
- ② 諏訪南中学校
- ③ 上諏訪中学校
- ④ 諏訪中学校

#### (3) 意見交換

#### (4) 閉会行事

閉会のことば

村瀬 裕美 中洲小学校長

## 第3章 諏訪市教育大綱（令和5～8年度）

### 基本理念

誰もが輝き 誰もが幸せ

新たな時代を切り拓き つながり続ける学びの和

ここ諏訪の地には、諏訪湖やそれを抱く山々に太古の地質変動と人々の営みの痕跡が残され、人々が自然に畏敬の念を抱いていた証しが、御柱祭や御渡りを代表とする諏訪信仰として残されています。そして、冷涼な乾燥気候が精密工業を盛んにした一要因となるなど、諏訪の人々は恵まれた自然の中で多くの歴史や文化、産業を生み、今に伝えています。諏訪市には、ものづくりを含め体験を通じて地域を知ることができる「ひと」「もの」「こと」が豊かにあります。また、寒冷な盆地で生きる術として身に付けたとも考えられる勤勉で探究的な諏訪の人のありようは、諏訪人氣質とも称されます。

わたしたちは、家族や仲間、地域の方々とつながりあいながら成長し、自分の好きなことや得意なことを伸ばしながらこころ豊かに生きるため、この地で多くの学びの機会を得てきました。

そんな諏訪の教育を取り巻く環境にも、今、大きな変化が訪れています。

少子高齢化、人口減少社会の進行は、これまでの右肩上がりの社会を基盤とした考え方を揺らし、同時に人の生活や働き方、価値観が多様化する一方で、孤立や格差の問題も顕在化してきています。また、大量生産・大量消費による工業を中心とした産業構造はサービス業中心へと変化するとともに、グローバル化のさらなる進展や、人とモノがインターネットでつながり新たな価値が生まれ、AIなどの技術革新により人の可能性が広がる Society5.0 という未来社会を目指す取組が始まっています。さらに、世界中が気候変動や自然災害などの環境問題に直面し、いまだ新型コロナウイルス感染症は終息の兆しがみえません。

諏訪市は、これまでの常識や価値観を変えるような、先行き不透明で将来予測が困難な社会が訪れようとしている中だからこそ、諏訪市の豊かさや諏訪人氣質を発揮することを目指します。

そして、誰もが心身ともに健やかで幸せに未来を生き抜くため、以下のことを目指します。

- ・ 皆が一緒に同じペースで同じことを行うことよりも、多様な個性や自立した個が尊重され、つながりあいながら対話や議論により、新たな価値を生み出していくこと
- ・ 互いに寄り添い、支え合うことで誰ひとり取り残されることなく、可能性が最大限活かされ、かけがえのない存在として自立すること
- ・ 誰もが誰とでも、いつでもどこでも、自分らしくかつ楽しく豊かな体験を通して探究的に学び続けること
- ・ 学びを礎として世代を超えて協力し合い、誰もが幸せに生きることができる社会のづくり手となれること

そのうえで、こうした学びをつなげて人と人とがつながる「学びの輪」、その先に、過去に学び地域や社会の未来をつくる力として光を放つ多様な「学びの輪」がなごやかでゆるやかに調和する、「学びの和」を目指した教育を進めます。



高島藩の御貸具足

（諏訪市博物館蔵）

江戸時代の高島藩の合印（あいじるし）。敵味方を区別するしるしは、金色に輝く輪「金索輪」。

## 基本方針

### 1【学校教育】自らを拓き、未来を生きる子どもを育てる

これからの時代を背負う子どもたちの学びが更に深まり、自分らしさを発揮しながら楽しい学校生活を送ることができるよう、3つのプラン「認めあい」「支えあい」「学びあい」と3つの重点活動「読書活動・読書会活動」「人権・平和教育の充実」「地域と一体となった防災教育・安全教育」を大切に、自ら学び、自らの力で課題に立ち向かう意欲を持った子ども、故郷への愛着を持ちながらも幅広い視野で考え行動できる子どもを育む教育を推進します。また、小学校と中学校における9年間の系統性・体系性に配慮した小中一貫カリキュラムを編成し、児童生徒の成長を支える仕組みを整え、これからの少子化等の社会環境変化にも対応できるよう、社会的自立を育む小中一貫教育を推進します。

### 2【地域教育】地域に学び、地域に生きる子どもを育てる

地域教育は社会教育、学校教育の二つの切り口があります。社会教育においては、その活動を通して人と人との交流を促進し、地域に新たな価値をもたらすような仕掛けづくりを進め、地域コミュニティの再生・活性化に貢献することを期待します。学校教育においては、総合的な学習の中で地域教材・地域人材を活用し、信州型コミュニティスクールの更なる推進や、郷土への理解や愛着を育む取組を進めます。これらの地域に学ぶ様々な取組により、まち全体で未来を担う子どもを育てていきます。

### 3【生涯学習・文化芸術】学びや文化芸術に、親しみ、活かし、つなぐ

市民一人ひとりが文化や芸術に親しみ、生涯にわたり自発的に学び続けることは、社会の一員として自立した個人を育むために、また、豊かな人生を歩むために大切なことです。私たちは、多くの人とつながりながらこの地域で生活しています。個人やグループが学んだ成果を活かし、生涯学習活動や地域活動を支えることは、諏訪の地域力向上にもつながり、学びや文化芸術活動の定着にもつながります。諏訪の特色を捉えた学びがいつでもどこでも誰でもできること、地域課題の解決に活かせること、学びを通じて仲間を広げ、人と人がつながることができる諏訪市を目指します。

### 4【スポーツ振興】誰もが気軽に楽しく親しめるスポーツ

健康づくりや生きがいを求める意識が高まる中、日常生活における運動やスポーツの役割はますます大きくなっています。文字通り健康づくりに取り組むことで健康寿命は延伸し、社会保障費の安定化にもつながります。これを実現するには、普及活動や施設等の環境整備が必要不可欠です。スポーツに対する関心を高めていき、より身近に感じてもらうことで、市民の誰もが、それぞれの年齢、体力、目的や興味等に応じてスポーツに親しむことができるようになり、生活の一部として楽しく気軽に取り組んでいける。そうした取組から、生涯にわたり心身ともに健康でいきいきとした生活を送ることができるまちを目指します。

### 5【文化財保護・活用】諏訪の特色である文化遺産を守り、活かす

指定文化財、博物館の資料、美術館の作品、偉人の顕彰等、諏訪の風土や先人によって築かれた歴史や文化を知る材料を「文化遺産」として守り伝えることは、諏訪で暮らす私たちのアイデンティティにつながり、まちの魅力につながります。

また、市民が諏訪の特色や魅力に気づき、活かすことで、交流人口の増加にもつなげることが可能です。

文化遺産の確実な保存と、魅力が伝わるような整備と公開を土台として、市民自身が文化遺産保護と活用の担い手となることを目指します。

## 【学習】 基本方針⑧ 学校教育

## 『自らを拓き、未来を生きる子どもを育てる』

これからの時代を背負う子どもたちの学びが更に深まり、自分らしさを発揮しながら楽しい学校生活を送ることができるよう、3つのプラン「認めあい」「支えあい」「学びあい」と3つの重点活動「読書活動・読書会活動」「人権・平和教育の充実」「地域と一体となった防災教育・安全教育」を大切に、自ら学び、自らの力で課題に立ち向かう意欲を持った子ども、故郷への愛着を持ちながらも幅広い視野で考え行動できる子どもを育む教育を推進します。また、小学校と中学校における9年間の系統性・体系性に配慮した小中一貫カリキュラムを編成し、児童生徒の成長を支える仕組みを整え、これからの少子化等の社会環境変化にも対応できるよう、社会的自立を育む小中一貫教育を推進します。



成果指標（KPI）	現状値	目標値	設定根拠
「ものづくり教育」の必要性、重要性の認識度	74.8%	80.0%	独自教育充実の指標
奨学金制度の新規利用者	8人	8人	必要支援実施の指標
満足度調査	令和5年度調査比向上		

## 【現状】

- 基礎的な学力の定着を基盤に、情報活用力・判断力・表現力・問題解決力等の「生きる力」を育てる教育の重要性がますます大きくなっています。
- 相手意識に立つものづくり科※という諏訪市独自の教育は、子どもたちの体験の幅増大、表現力や問題解決力という生きる力の育成につながっています。
- 奨学金制度については、これまで様々な制度の見直しを行ってきましたが、国の動向等を見定めたくて、より柔軟な対応が求められています。
- ICT※の環境整備が行われ、学校における更なる活用と、情報機器の正しい利用のための情報モラル教育が必要となっています。
- 経年による老朽化や、学校環境の多様化に対応した施設整備や改修等、子どもたちが安全で安心して学習できる環境づくりが必要となっています。
- 子どもたちを取り巻く社会環境、情報環境が複雑化し、いじめや不登校の態様が変化する中で、子どもや家庭の個別の事情等に応じた支援が必要となっています。

## 【今後起こりえる課題等】

- 発達障がいを含む様々な障がいのある児童生徒が増加傾向にあり、特別支援教育の更なる充実が必要となります。
- 多様化する家庭環境により、就学への経済的支援の状況は日々変化していくため、より柔軟な対応が必要となります。
- GIGAスクール構想※実現のため端末の整備を実施しましたが、今後も時代の変化に応じた新たな要素の教育現場への導入が想定されます。
- 地域の実情や特性を踏まえつつ、市内小中学校の適正規模・配置をすることが必要となります。
- いじめや不登校の要因・背景によっては、様々な機関が連携して対応する必要があり、問題解決や社会的自立に向けた協力体制や受け皿の確保が必要となります。

## 【主な施策方針】

### ■ 基礎学力の向上と心・体の成長

目指す子ども像「自らを拓き、未来を生きる子ども」を育てるため、3つのプラン「認めあい」「支えあい」「学びあい」と3つの重点活動を大切にした教育を実践します。

### ■ ものづくり教育の推進

諏訪地域に息づく「ものづくりの精神」を活かした「相手意識に立つものづくり科」を実施し、諏訪版キャリア教育としての「ものづくり教育」を更に深め充実させます。

### ■ 特別支援教育の充実

特別な支援を必要とする子どもが安心して学校生活を送ることができるよう、学習支援員や自立生活支援員による支援を拡充します。

### ■ 就学への経済的支援

経済的に厳しい家庭のための就学援助や、スクールバス運行等による遠距離通学児童生徒の通学支援を継続します。また、奨学金制度の周知徹底を図ります。

### ■ いじめ問題や不登校支援への取組

複数の要因や背景が複雑に絡み合う児童生徒の悩みや課題に対し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、あゆステ等を含めたチームで寄り添い、支援します。

### ■ ICT教育の推進

一人1台配備されたタブレット端末をプログラミング教育や授業等においても活用する等、ICT教育を推進します。

### ■ 未来創造ゆめスクールプランの着実な推進

「未来創造ゆめスクールプラン」に掲げた小中一貫教育学校の設置に向け、地域にも丁寧に説明しながら着実に推進していきます。

### ■ 学校施設の計画的な整備

「個別施設計画」や「未来創造ゆめスクールプラン」の進捗状況等を踏まえ、計画的な学校施設の改修・修繕を進め、安全で子どもたちが安心して学習できる環境を整備していきます。

## 【関連計画】

計画名	計画期間
諏訪市教育振興基本計画	平成30～令和4年度
諏訪市未来創造ゆめスクールプラン	平成30年度～
諏訪市公共施設等総合管理計画	平成29～令和8年度

## 『地域に学び、地域に生きる子どもを育てる』

地域教育は社会教育、学校教育の二つの切り口があります。社会教育においては、その活動を通して人と人との交流を促進し、地域に新たな価値をもたらすような仕掛けづくりを進め、地域コミュニティの再生・活性化に貢献することを期待します。学校教育においては、総合的な学習の中で地域教材・地域人材を活用し、信州型コミュニティスクールの更なる推進や、郷土への理解や愛着を育む取組を進めます。これらの地域に学ぶ様々な取組により、まち全体で未来を担う子どもを育てていきます。



成果指標（KPI）	現状値	目標値	設定根拠
学校支援ボランティア 参加者延べ数	10,304 人	21,000 人	教育に対する協働の指標
地区育成会等活動支援事業 参加者数	1,600 人	1,600 人	地域での子育てに対する 意識醸成の指標
満足度調査	令和5年度調査比向上		

### 【現状】

- 少子化が急激に進み、地域における子どもの活動が減少していく中で、子どもたちの地域との豊かな関わりの創出・郷土への関心が求められています。
- 子どもが地域で学ぶ、地域が子どもを育てることを促進するには、コミュニティスクールとの連携が必須と考えています。
- 地域教育を推進するには、地域社会で子どもたちを見守る土壌をつくり、地域活動への子どもたちの積極的な参画を促す方策の検討が必要となっています。
- 情報機器の急速な普及等により、青少年がネット上のトラブルに巻き込まれる可能性が高まっています。

### 【今後起こりえる課題等】

- 少子高齢化が進むことで、地域行事の減少や活動に参画する人材の確保が困難になっていくことが考えられます。
- 新型コロナウイルス感染症感染拡大により、地域活動の制限がされることで、地域と子どもとの関わりが弱くなってしまう可能性があります。

## 【主な施策方針】

### ■ 地域協働の学校づくりと子どもの育成

地域住民が学校ボランティア等を通じて子どもたちに関わるとともに、コミュニティスクールを通じた学校運営参画をすることで、学校と地域の信頼関係を深め、地域教育力を高めます。

### ■ 郷土諏訪への愛着と誇りを育てる取組

郷土諏訪の「ひと・もの・こと」を題材にした郷土学習である「ふるさと学習」の充実を図ります。また、生涯学習施設と連携し地域の歴史文化や芸術を学ぶ機会を増やします。

### ■ 青少年の自立支援

地域の中で子どもたちが希望に満ち、生活を充実させながら地域活動に積極的に参加できる機会を得るため、地域の育成会が実施する育成事業、伝統文化事業への支援をします。

### ■ 地域の中で子どもを育てる取組

少年愛護委員による定期的な街頭巡視活動を行いながら、地域の中で子どもたちをとりまく環境を見守り、地域の安心・安全につながるよう委員活動の充実を図ります。



【ふるさと学習（諏訪学）】



## 【関連計画】

計画名	計画期間
諏訪市教育振興基本計画	平成 30～令和 4 年度
諏訪市未来創造ゆめスクールプラン	平成 30 年度～